

第 1 回滑川市まちづくり共創会議開催結果

開催日時 令和 5 年 10 月 16 日（月） 17:00～19:00
会 場 滑川市役所 3 階大会議室
出席者 委員 12 名、藤野英人特別アドバイザー、
市長、副市長、総務部長、事務局（企画政策課）

	委 員	備 考
1	星名 照彦	座長
2	廣瀬 淳	副座長
3	福井 信英	
4	清水 義彦	
5	土肥 薫	
6	石田 拓人	
7	深井 あゆみ	
8	樋口 幸男	
9	桶川 高明	
10	砂子 典章	
11	金川 奈那美	欠席
12	浦田 結那	欠席
13	長瀬 めぐみ	
14	由井 千尋	欠席
15	山内 大河	

議 事 ①滑川市まちづくり共創会議報告（案）について
②今後のまちづくり共創会議の進め方について

上記 2 件について、包括的に自由に意見を交わして頂いた。内容については別紙のとおり。

【議事】

座長

ただいまから令和5年度第1回滑川市まちづくり共創会議を開催する。

まず、議題1の報告案と議題2の今後のまちづくりの共創会議の進め方について、柿沢副市長から一括して説明願う。

柿沢副市長

それでは私の方から報告書案を作成した過程について説明する。

滑川市の将来ビジョンについて、3ページをご覧頂きたい。皆様方から前回の会議の際や会議後にも将来ビジョンについてご意見を頂いた。また、将来ビジョンと「すべらない街滑川市」のキャッチコピーの関係について、整理する必要があるというようなご意見をも頂いた。そうしたことを踏まえ、滑川市の将来ビジョン、目指すべき姿を、「幸せいっぱい 笑顔がいっぱい 滑川」を一つの案として掲げている。そして前回お示しした「強く 優しく 輝く 滑川」は、ビジョンなのかという議論もあったが、これについて、滑川市の政策推進の柱という位置付けにしたいと考えている。目指すべき将来ビジョンを達成するために、政策という手段を講じていくという関係である。市役所だけではなくて市民の皆さんと一緒にになって取り組んでいく政策だが、その政策推進の柱は「強く 優しく 輝く 滑川」になると考えている

将来ビジョンを作るにあたっての考えは、経済成長だけでなく精神的社会的にも充実した幸せを求めているのではないかと、富山県のビジョンは、具体的には幸せ人口1,000万人、ウェルビーイング先進地域富山という言い方をしており、その核心はウェルビーイングであり、県民が精神的にも社会的にも肉体的にも幸せになるということを目指していきたいということである。

県のビジョンも踏まえ、自然文化の魅力にあふれる滑川市に多くの企業が立地し、経済的にも恵まれている環境下にあって、市民の方が癒しや安らぎを高めていくことが必要である。富山県の中にある滑川市という位置付けもあり、富山県が目指すウェルビーイングと軌を一にしたい。市民の幸せってというのは当たり前のことだが、それをしっかりと打ち出して、皆さんが明確にそれを目指すという同じ思いを持つということが大事だと思っている。そういうものを前面に押し出していく。前回の将来ビジョンについては委員の皆様からも意見はたくさん頂いた。シンプルで汎用性の高いビジョンが良いという意見もあるし、老若男女誰が見てもわかりやすいビジョンが良いという意見もあった。前回、すべらない街ということで議論をしたが、そちらは滑川市を市外に向けて打ち出したキャッチコピーであるというふうに整理をさせて頂きたい。「幸せいっぱい 笑顔がいっぱい 滑川」を将来ビジョンの案として位置付けていきたいと思う。政策推進の柱、これは手段としてそのビジョンを達成するために力強く進めていくべきものと理解している。具体的には市政推進にあたっては例えば「強く」であれば産業とか災害に対し強く、「優しく」というのは子育て福祉などにやさしい、「輝く」は教育であるとか自然文化の魅力、将来に向けてのものである。こうした意味で強く優しく輝くに力強く取り組みを進めていくという整理をした。取り組むべき政策について、こちらで議題1と一緒に合わせてご意見頂きたい。報告書案は、委員の皆様から頂いた意見をできるだけ載せるように努めたものである。政策のポイントについてアンダーラインを引いた。網掛け青色は、前回の会議であるとかその後、皆様から頂いたご意見を付け加えた箇所である。新しく付け加えたところを説明する。ブランド関係は、地域に住んでいる方と、地域外の方との観点には違いがあり、観光やブラ

ンディングは富山県内で話を完結せずに、外からの目線、当然外から来る方に対してアピールしていかないといけないので外からの目線が大事だということは、常に意識をして政策を考えていくべきという意見を記載した。ホタルイカ・海洋深層水に関しては今後もこだわりながら、さらに新たな地域資源の議論も必要ということであり、皆様からはホタルイカは、滑川の大事なブランドであるということで、さらなるブランド化に向けて打ち出しを強めていく必要があるというご意見をたくさん頂いた。ホタルイカにかわるブランドを考えていくのではないかとということで、深層水でブランド化を図れないかということを考えていくことも必要ではないかという意見もあった。新たな地域資源の議論も必要であるということに関しては藤野特別アドバイザーの意見では、滑川市にはたくさん企業が製造業中心に立地をしていると、そういう意味では外からの経済の取り込みは行われているが、さらに文化がある瀬羽町などのまちづくりで面白い動きが出てきており、そうしたまちづくりにも取り組みを行っていくことにも目を向けていく必要がある。お金、それから人、こういうものを外側から取り込み、地域経済循環を行っていくことが必要になってくる。すべらない街滑川市はキャッチコピーという位置付けで考えており、大変インパクト、ユーモアがあり滑川市の認知度アップに繋がるというご意見を多々頂いている。委員の皆様以外の方からもとてもいいキャッチコピーじゃないかっていう意見を多く頂いた。例えばすべらない神社みたいに合格するみたいな形でもっと発展させることができないかというご意見も記載した。交流関係人口の拡大のところでは、対外的に外に向けてこういうアピールの仕方もあるのではということで、駅に１メートル程度のキラリン・ピッカの銅像を置いて、頭をなでたり、触ったりして楽しめる、それからマスコットに意味づけをして、例えばピッカだったらいつもピンク色になっている。そのピンク色にかけて恋が叶うとか、或いは願いが叶う願いが叶うキラリン・ピッカのような意味づけも合わせて出しながら、打ち出しをしてはという学生目線の貴重な意見を記載した。学校教育人材育成のところの、市内の高校生と情報系の大学生の交流会があると、ICT 機器を用いた教育で、今、高校生が抱えている問題であるとか、高校生からの率直な意見が聞けるのではないかとご意見であり、考え方としては、学校において、デジタルに詳しくない先生もいるのではないかと。そうした中で、生徒さんの方でも、デジタル機器の使用に抵抗感がある生徒さんもいるのではないかと。そうした中で高校生にとって、大学生との交流というのは、ありそうでないというのが現状で、そうした大学生しかも年齢も近いので話もしやすい。そういうところで先生から聞きにくいところも聞けるのではないかと。そしてその大学生が持っているスキルを高校生に教えてあげることによって、うまく回転、循環できるのではないかとご意見を頂いております。私も独自にちょっと修正した箇所、DXのところ、市役所のDXということで、施策の方向性の業務の見直し効率化っていうところで、今一生懸命やっているDXに向けての取り組みを記載した。私も市役所では全業務をすべての業務の洗い出しを行っております。すべての業務の洗い出しを行い、分類しまして、まずその段階で不要な業務、内部業務でやらなくてもいい、打ち合わせであるとか、資料であるとか、そういうものがもしあればできれば廃止をしていく。それから次のステップとしてその中、さらに上った中でデジタル化できるものはデジタル化を行っていく。デジタル化することによって今まで紙に書いたりや手計算していたものの業務量が圧倒的に少なくなる。そうした上で、さらに正規職員でなくてもできる業務は、例えば派遣職員や会計年度任用職員が行うという方法も考えられる。そうした上で職員の正規の業務も圧縮し、圧縮して暇になったではなくて、クリエイティブな業務とか或いは市民の声を聞くという仕事がまさにやるべき仕事であり、こうしたことをやる市役所になっていくために、今一生懸命市役所内部が取り組んでおり、前回までやっていない取り組みとして記載した。

二つ目の議題としてご意見頂きたいと思っております。

今後の取り組みについても中間報告の時には具体的にはなかったが、今回具体的に何をするかを記載した。最初は市民セッションです。市民の声を今この報告書案をここだけのものにするのではなくて、これを市民の皆様へ説明をし、市民の皆様の声を聞いていく市民セッションの実施、具体的な内容は記載してないがイメージのために申し上げますと、この報告書案の概要版を作り、2回の市民セッションにて説明します。今この報告書案だと、五つのテーマを1回目2回目の二つに分け、ご意見を頂く。報告書案を説明した後に、大体40人を数グループに分けて、グループディスカッションをし、各グループから意見をもらう、そんな市民セッションを行いたいと考えている。この市民セッションに委員の皆様方にもご都合つけば参加を頂きたいと思っており、そのグループの中に入って頂き、一緒になって議論を進めていただければありがたい。ワーキンググループ(WG)の設置は、この五つのテーマごとに、形だけ整えて、形式的に設置するのではなく、必要なWGから順番に立ち上げていって、順番に進めていきたいと考えており、瀬羽町のまちづくりが進んでおり、晒屋地域についても空き店舗空き家が多いこの辺りも含めて、空き家を活用したまちづくり、こうした取り組みについてまちづくりWGでディスカッションを行っていききたい。そして併せてプロジェクトチーム(PT)は、所属にかかわらず市役所職員で思いのある人を募集して、職員によるPTでもWGと合わせて検討を行っていききたい。少人数でできるだけ話しやすい雰囲気を作り、グループの中で議論して出す、こういう意見も委員の皆様から頂いていたので実施して参りたい。また、共創会議などでのディスカッションを盛り込んで総合計画を改定したい。以上の通りである。

座長

本日の議題を一括して説明した。

まず一つ目の議題の滑川市まちづくり共創会議の報告書案につきまして、ご意見頂きたい。

委員

ホタルイカの以外のブランドについて、滑川のベニズワイガニがおいしいことに気づいた。魚津産と滑川産で食べ比べたら、理由はわからないが、圧倒的に滑川の方がおいしい。ベニズワイガニは、魚津とか射水が有名であるが、滑川も勝てるのではと最近思う。ベニズワイガニも盛り上げて欲しい。

座長

ベニズワイガニという話出ましたが、滑川のベニズワイガニはどうしておいしいのか、ご説明をお願いします。

委員

まず、ベニズワイガニは基本的に深いところで獲れる。ズワイガニが大体300メートル前後、ベニズワイガニはそれより下1,000メートルぐらいの深さで獲れる。新湊とか魚津は、それほど深いところではないが、距離的にも湾内でも近場の方におって漁から帰るのが早いので、陸揚げしたものを生で競りに出す。それを買った業者が茹でるが、滑川は他と違ってまず深いところで獲るので、操業に出してから、帰ってくるまで半日以上、そのあと上がってきた段階ですぐ漁協が茹で、そのあと、競りに出す。茹でるタイミングや漁場の違いもあり、味は全く違う。

座長

ありがとうございます。

デパ地下に行きますと、滑川産のベニズワイガニもあって、私の友人でも結構やっぱり滑川産を好んで買うと聞いている。

委員

現在滑川には、かに船は2隻しかない。昔は6隻ぐらいにあったが、長い間2隻。沖合遠くまで行くということもあり、週に2度ほどの漁で獲る量は全体的に少なく、新湊とか魚津には負けてしまう。魚津は週3回ぐらい漁に行く。新湊は、毎日のように漁があるので、新湊には負ける。新湊は高い値段で店に卸されるので、値段と味は見合わない。滑川産は他よりも安くておいしいことについて発信が下手である。他と同じような値段になると、地元の人のお口にも入らなくなってしまうのでただ値段をあげれば良いというわけではない。ところで、県外の方の観点は違いがあり、結局自分達でこれに価値があると思っていても、なかなか分かってもらえない。結構いろんな街が街ガチャをやっており、ガチャガチャにその街の名所の型を入れ、お金出して買う。その中にはその人たちが知らない場所も入っている。滑川市に有名なものがあるかわからないが、滑川市の中でこんなレアなところもあるよって街ガチャにして出すことにより、そこに訪れてもらえる。自分たちで価値があると思わなかったところに、価値を生み出してくれる可能性が出てくると思う。先ほど銅像の話もあったが、それも街ガチャの中にその銅像の小さいものを入れ、これってどこにあるのだろうとそこにいってもらうのももちろんいいと思う。最初に銅像にお金をかけるのかどこにお金かけるのが良いかわからないが、街ガチャだったら小さい金額で面白いことができるのではと思う。滑川でもできないかなと思った。

委員

すべらない街滑川市のポスターは友達と見ても小ネタになり、すごくすてきだと思っている。WGや大学生と高校生がITについて交流するときにはユーモアのあるものをテーマにすると、人って対話したくなるのではないかなと思っている。以前ユーモアや自虐ネタが飲み会でテーマになって、それが形になっていくっていう話があったが、WGでも、この滑川の未来どうしようかって話をするより、何かおもしろおかしいネタの方が、今まで来なかった人たちが来るような気がする。外から人を呼び込んでくるきっかけになると思った時に良いフレーズがすでにあるので、それを活用して話し合いができれば、駅前にキラリンの銅像も、滑らないネタで、インスタで発信してもらいやすくなるとか、自分たちが頑張らなくても、いろんな人が発信したくなるきっかけになる気がするので、良いフレーズがあるので、活用したいと思った。

委員

蟹をあまり食べないので、滑川産がおいしいって知らなかった。説明を聞くと、何か人にも勧めやすくやすくなる、プレゼントしやすくなる。プレゼントした時に、なぜ滑川の蟹がおいしいのか説明しやすくなる。ホタルイカも、兵庫県産よりも滑川産がおいしい理由があると思うが、そういうのが多分市民全体にちゃんと理解されていない。ホタルイカが有名で蟹も獲れることは、市民の人たちは何となく知っているぐらいの知識だと思う。今みたいな豆知識、漁師さんが茹でるとか、魚津よりも深いところとか、結構食いつくと思うので、そういうことを聞けば市民として誇りを持てると思う。プレゼントとか滑川産に

しようと思うかもしれない。そういうところを、例えば、芸人さんみたいな人に滑らない話ししてもらって、滑らない話としてさっきの蟹の話やホタルイカの話などを表に出しても面白いかなと思う。

座長

滑らないって言葉からいろんなことにつなげていこうということだが。他に何か。

委員

今の話に便乗する形になるのですが、確かに他と比べておいしいと言われたときに、何でそれがおいしいのかっていうその理由を話してあげると、多分実際に興味を持ってもらったりすることができると思う。資料の方にも書いてあるが、若い世代が県外に出てくときに、滑川の魅力を知識として持って行くことが多分大事だと思う。その若い人が都会とかに出て、知り合った人に滑川ってどういうところなのって聞かれたときに滑川はホタルイカが有名で、ホタルイカって何って聞かれたときに、こういうところで取れて、ホタルイカだけでなくベニズワイガニにも有名でと説明するきっかけになると思う。その話で興味を持ち、食べたいので購入する。この流れをしっかりと作っていけば良いと思う。

委員

0から1を作るのも良いが、滑川がやっていることをさらにバージョンアップしプラスになるような方向性を描くこともできるのではと思ってデータを見た。人口は軒並みどこも減っているが、減る数が滑川市はちょっと緩やかというところが大きな特徴なのではないかと思っている。広報滑川の2023年3月号の2月1日現在の人口を見ても、男女ですけど、前の年の同じ月を見ても少しは減っていますが、世帯数を見ると増加となっている。滑川市の政策の効果が出ているところと思う。なかなか結果は出ないが、結果が出ているところをアピールするのも一つのブランディングと思う。将来ビジョンのキャッチフレーズも、全国の市のデータを見ていたが、どこでも当てはまるような大きなことが書いてある。滑川の将来ビジョン、どうやったら幸せなのかとか、どうやったら笑顔が出るだろうって、もう少し踏み込んだところに落としとしても良いかなと思う。滑川市のブランディング、今ある良いところをさらにアピールして何か提案できないか。

座長

データからアピールすることについてのご意見。

将来ビジョンの話ですけど、これに関して何かご意見あれば。

委員

滑川市の将来ビジョンということで幸せいっぱい笑顔がいっぱい滑川と提示頂き、悪くないなって思った。まず第1としては全方面に配慮されており、富山県とも軌を一にするっていうことは重要だと思う。前回までの議論とかで、子供たちの笑顔とかそういうふうなところで体験も踏まえて、悪くないなと思ったのですが、やっぱりおっしゃったようにちょっと総花的な感があって、滑川市の色を入れていくべきと思っております。悪くないけど物足りない。幸せいっぱい笑顔がいっぱい〇〇市、他の市でも成り立つ。幸せいっぱい笑顔がいっぱいは受動的で、ウェルビーイングというその富山のフレーズにもちょっとすごく受動的というか、誰かが幸せにしてくれるみたいな、行政が幸せにしてくれるみた

いなことが、ちょっと感じ取れたりして人任せみたいなのところがあったけど、結局幸せとか笑顔を作るのは、やっぱり自分たち次第じゃないかなという気もする。別に伝統とか、子育てをより良くとか、結局何か自分たちでやっていくというメッセージを入れていきたいと思うし、そういうことができるまちが、これからの時代生き残っていくかな。何か私達で作るとか、自分たちでやるみたいなの、そういうフレーズを可能であれば加えたい。

委員

先ほど滑川市の世帯数が増えているというところで、今住宅が急に滑川で伸びている理由が、国から農業の補助金頂いたので、農地を住宅に転用できなくなる前にどんどん住宅が建っているっていうような噂話を聞いた。もしそうだとしたら、今、空き家対策に力を入れたほうがいい。今後8年かな、農地が転用できない期間があるっていうことはもう空き家対策っていうのに絶対的な力を入れていかないといけないと感じており、滑川が抱えている課題を共有することで、より良い議論ができる。

座長

ありがとうございました。
農地転用について説明願う。

水野市長

国営での農業用水の工事をしており、令和5年度の末、令和6年3月で終わる。農地、用水受益地全部が、今言われたように8年縛り、8年間の開発もできない。いろんなところで住宅を建てるが来年からそれが止まる。市民の方々に知らない方もたくさんいると思う。そういった現状の中で、この滑川市全体を考えたときに、工業団地もまだ必要だと思う。住宅団地もまだ必要だと思う。工業団地は県の協力をお願いしている。土地利用をバランス良く展開していくか。その辺は本当に大きな課題感、次世代にこのまちをよりよい街に残していくためにも本当にこの問題は大きな問題だなという認識を持っている。

座長

まちづくりや空き家対策に関して、ご意見ある方おられれば。

委員

4月に新入社員の研修を滑川市で2週間から1ヶ月ぐらいする。滑川市は宿泊施設が少ない。ビジネスホテルは2週間とか1ヶ月泊まるには基本的にワンルームで狭く、そもそも4月だと滑川のビジネスホテルも取れなくて、富山市のホテルに泊まることになり、非常にやりにくい。もうおそらく海沿いのちょっとリフォームした住宅とかを1週間とか1ヶ月貸し出し、お試し住まいできる民間事業者の宿泊施設にできたら、滑川の様子もよく知ってもらえるし、滑川で事業を営んでいる事業者の方々がより気軽に滑川で研修を行えたりすると思う。

座長

大変貴重な意見を頂いた。いまのご意見について何かあれば。

委員

富山県では一泊 100 万円の宿があるという話もある中で、逆にその空き家を使って宿泊に使えるようなところがあればいいと思うし、旧家を改造した入善の櫛山いろり館、1 泊 2000 円程度で寝具は 500 円程度、厨房があるのでそば打ちをしたりおでんを作って食べたりっていう、何回か使っているが、あのような施設が滑川のコアにあって、民間の事業者が使うとすれば、例えば、中滑川から徒歩圏内にあれば、メリカを使って何か研修するという流れになると、具体的にイメージが出る。おそらく、空き家を放置するのではなく、簡単なリフォームで使えるものがあれば可能。

座長

ご意見ありがとうございます。

まちづくりに関するご意見頂いているが、水産業、商工業の創業支援、子育て支援、教育、人材育成などでご意見あれば。もちろん、まちづくりのご意見でも。

委員

旅行系の仕事の関係で、20 代のメンバーで全国を転々として仕事することがあるが、その際に一軒家を利用する。一軒家で寝食ともにして自由にしゃべって仕事する。一軒家で仕事するリビングと Wi-Fi さえあればどこでも仕事できる。そのような施設をサイトで調べても、滑川にない。ちゃんと調べたらあるかもしれないが。魚津とかに 2 個あるぐらい。滑川にあればと思いました。例えば、富山県に旅行がてら仕事に来るので一軒家探すときに、近場の滑川に安い宿があれば、別に滑川を目的に来た人じゃなくても、選択肢があれば滑川に泊まって滑川にお金が落ちるってこともあり得ると思う。空き家とかあるはずなので、実現すると、そのような生き方をしている若者とかも結構助かるかなと思う。

委員

公共交通機関の話も盛り込まれているが、滑川に滞在するということを意識すると、旅行する人の移動手段がないと思う。以前レンタサイクルの話も少し出たが、電動キックボードとか、電動アシスト自転車のシェアリングということも報告書案に書かれているが、今後、実施するのか。

柿沢副市長

頂いた意見については、すべて検討することとしている。記載した意見については、面白い取組みと考えている。電動キックボードの実験的な取組みもあった。どういう形で実現していくかっていうことはまた今後の課題である。若い人たちが集うような話だとか、滑らない神社の話、銅像の話などをうまくやれば、SNS で発信される若い人の聖地なるかもと考えており、訪れた際に移動手段がないと次のポイントまで移動できないので、検討してまいりたい。レンタサイクルは、具体的に検討してないですけれども、ここに書いてあることは基本的な考えとしてすべて行政だけでやる話ではないとはという理解しており、行政と民間で一緒に取り組み、どちらがよりウェイト高く取り組むということも含めて、検討していきたい。

座長

子育て支援とか教育とか人材育成の方で何かございませんか。

委員

子供が高校生の時、勉強したいのに図書館の席が空いてないとかっていうことがあったので、対応して頂きたい。市民交流プラザにも席があるけど、暗いし席数が少ない。もっと勉強したい人、本を読みたい人が使いやすい場所があればいいなと思う。

水野市長

メリカの1階や1階のフリースペースも高校生に開放している。交流プラザからメリカへ流れてきている高校生もいる。そこをうまく活用して頂ければと考える。

委員

メリカの2階の部分、ソーシャルカレッジに登録して頂くと、学生であっても無料で使える。ソーシャルカレッジのメンバーの80名は学生で、テスト前になると、1階も2階も学生で埋まるという状態。この後、席取りとか、そういう問題も出てくると思うが、現状はまだテスト前でなければ余裕があるので、ぜひ利用していただければと思う。2階は登録しないと使えないが、1階は本当に自由に使える。2階は、学生ではない仕事で使っている大人とかいろいろな方がいるので、集中できないと言う方もいる。

座長

ありがとうございます。

次お願いします。

委員

市民交流プラザは、コロナ対策で席を制限しており、前は2人で1つの机だったのを、1人で使用している。席がないって言って帰る人たちも結構いる。図書館は、皆9時前に学習室に列になる。かわいそうな光景なんか見るので、対応してもらえれば。

水野市長

状況を把握します。

座長

ご意見ある方おられれば。

D×などの他の項目でもよろしいですし、いかがでしょうか。

委員

先ほどの学生の席の件で、確かにメリカにまだ余裕があるが、メリカって本来はにぎわいを創出するための施設である。にぎわいと学習っていうのがマッチしない。勉強をする人や仕事をする人は静かにしてほしいと思っているが、メリカってにぎわいを創出するためにイベントなどでにぎわいを頻繁に作っているんで、どうマッチングするかどう舵取りしていくかが結構ネックになっている。メリカ＝学習施設というイメージになると運営しづらくなるので付け加える。

座長

ありがとうございます。

他に何かございませんでしょうか。

委員

小学生の子どもが、学習端末を毎日持ち帰ってくるが、端末が本当に重たいと言っている。小さい子には負担だと思うので、検討してもらいたい。

座長

市の方で回答よろしくお願いします。

水野市長

D Xの良いところと悪いところが出ていると思うので、いろんな意見を出してあって、現実的な良い方向に進めればと思う。

座長

もし出し尽くしたのであれば、二つ目の議題。

今後のまちづくり共創会議の進め方についてご意見頂きたい。

委員

確認ですが、この報告書を作った後、事業化して、検証して、また新しい計画を作成する、多分総合計画と同じような流れと思うのですが、今年、市民セッションした後に、事業予算化するなどのざっくりしたスケジュールを聞かせてほしい。

柿沢副市長

市民セッション等を経て、今年度中に報告書案から案の文字を取る。それを受け、今年度中に総合計画について、新しく作り直すのではなく、まちづくり共創会議での内容を追加するなどの改正を行う。並行して、令和6年度に向けての予算編成作業も行い、令和6年度にできるものから事業化する。基本的には共創会議と一緒に民間との共創による事業がこれからの時代だと思っており、その観点を持ちながら、新年度の予算を組み事業を実行していきたい。当然のこと事ながら次年度以降は、その時々の事情に応じて、或いは取り組んだ実績に応じて、PDCAで必要な見直しは随時行う。まずは、随時この報告書の見直しを行うが、その前にまずWGを始めます。まちづくりWGからまず始めていこうと思っており、まちづくりには時間がかかるため、まちづくりWGを複数年度かけてやってく形になると考える。他のテーマのWG、子育てWGとか教育WGとかも立ち上げるかもしれない。そういうものを立ち上げながら、より具体的なところの議論をすることが来年度以降中心になってくるのではないかと考えている。

委員

この1月以降、報告書を随時改定とあるが、報告書は1回確定する必要があるのでは。

柿沢副市長

1月で1回確定し、案の文字を取る。

委員

報告書随時改定は市民の方が誤解する気がする。随時は、1回方向性ができたものを、当然必要であれば改定するという意味合い。WGが行われていくので、その度に報告書を随時変えるというようなイメージを受けたので、説明あれば良いと思う。私の仕事はまちづくりに入るので、専門家の立場からいうと都市の開発は、例えばさっきの宿を作りましょう、都市部だったらマンションを建てましょうとなったときは、民間の人が出資する。例えば1人50万、100万円出資する。それをもとにSPCを作って建てる。ある程度収益が出た段階で売却して、精算するという流れになる。今回の話に出た宿も、市民の方の夢を市役所が受けとめて実行するというのは、無理。最初に建てることはできるけど、その後は続かない。このまちづくりWG、少し危険と思う。市民の夢を語る場と、極端な例だが、1口50万円の出資を募る人や本気でまちづくりをする人と、そのすみ分けが必要になる。クライアントからはそんな宿があったら良いなどの話はくるが、採算性っていう部分でかなり厳しい。特に宿の場合だと、オフシーズンにどういう導線を取るかいうところで、滑川市の課題があり、そこを冷静に判断する必要がある。ある程度知識を持った人たちと夢だけを語る人たちだけでWGを構成すると、多分、破綻する、市民セッションは、テーマごとに2回程度なので1月に案を外すとなると、多分そこまで深い話できないし、夢を語ってもらっても、良いですねで終わらせるしかなくなるので、進め方は慎重に考えてもらいたい。

座長

貴重な意見ありがとうございました。

それにつきまして、副市長、よろしくお願いいたします。

柿沢副市長

市民セッションとWGは別ものです。市民セッションは、ここで議論している最終報告書案について、市民の皆さんが夢を語るものを2回やって、この最終報告書案を確定し案の文字をとるために実施すると考えている。WGは、実は瀬羽町、晒屋という具体的な地域を中心にしながら、極めて現実的なものを考えている。専門家や地元の方、地権者であるとかの関係者などが参加し、具体的にこの地域を誰がどのようにするかということを実務レベルでディスカッションする場である。地域のビジョンを作った上で、メンバーでもある専門家の方々が具体的に専門家の立場で、動いて頂く公民連携で進めていく第一歩がこのWGであると思っている。

委員

瀬羽町でご存知の方もいるかもしれないが、昔、まちづくり公社でヨットハーバーの整備と瀬羽町の通り沿いにマンションを開発するという計画を大学の研究所の方と作成し、市に提案したがという話を聞いたことがあるが、これが失敗している。今回も同じ流れにならないようにその失敗した理由を分析し、動いたほうが良いと思う。

座長

今、藤野特別アドバイザーとオンラインが繋がったので、副市長、今までの議論を藤野さんの方にご報告願う。

柿沢副市長

ビジョンに対しての意見は、「幸せいっぱい 笑顔がいっぱい 滑川」は良いが、何か滑川市の色を出せないか、幸せを作るのはまさに市民である私達なのでそうした要素を加えた方が良くはないかという意見を頂いた。政策についてのご意見は、ブランドという意味でホタルイカ以外のものを考えていく必要がある。滑川市のベニズワイガニは、1000メートルの深いところで獲れ、その蟹を漁師さんが直々に茹でる、茹でるタイミングが抜群でおいしいことをブランド化する意見。「すべらない街滑川市」は、これは大変良いということで、「すべらない街滑川市」をもっと題材にして話し合いをすれば人が集まってくるし、もっとアピールしていけば良い。滑川市には宿泊施設が少ない。そうした中で、空き家の活用ということが大事になってくる。例えば、民間企業の社員の宿泊施設としての活用それから、旅行者のゲストハウス的な活用の仕方なども検討していけばいいのではないかと、いう意見も出た。今後の進め方につきまして、議論を始めたところであり、市民セッションやWGをどのようにして進めていくのかということで議論を行っていたところである。

座長

藤野特別アドバイザー、副市長の報告について、ご意見、ありましたらよろしくお願いします。

藤野特別アドバイザー

事前に資料を読んで思ったことは、副市長の方に事前に伝えた。

皆さんから出た意見と実は似たことを話しており、ビジョンのところ、素晴らしいが、何か全般的に丸い、尖りが無い。もともと市長の公約に基づいていることと、コンセプトとしてはその通りなので、言葉を磨くことが必要と思う。少し尖りをつけたほうが良い。

要は、特色や言葉の面白さというのを付けるといいと思う。内容を変えずに、ワーディングを変えればよくなると考えた。滑川のベニズワイガニがおいしいことについて、富山に生まれて、里山にも関わりがあって、滑川の会議に出てベニズワイガニの話を初めて聞いたので、こんな素晴らしいものがあつたのかということに驚いたと同時に、だから逆にベニズワイガニを知らせるのは大変だとも思う。人間はたくさんしたこと覚えられないので、東京、名古屋と大阪府でホタルイカは、滑川で認知されているっていうところは、大きいと思う。その中でサブブランドとしてベニズワイガニをどう展開していくのかということだが、ベースはホタルイカで売って、ベニズワイガニを売るみたいな感じになると良いと思った。商材が豊富だということは素晴らしいと思った。

あと「すべらない街滑川市」はインパクトがあるので、おいしい広島に近いギャグだけでも、滑川という言葉の面白さと読み間違いをされるというところ、あと滑らないっていうところ、意味を掛け合わせているので、この言葉は非常に面白いなと思い、これは、存分に活用したいというような意見が出てくることは非常によくわかる。

あと、一番簡単に押せそうだっていうところで見ると、やっぱりホタルイカと瀬羽町なのかなという印象がある。瀬羽町そのものがまちづくりとか交流というところの拠点であると。それから、瀬羽町だけではないが、空き家活用で瀬羽町に食や遊びというところを集

約していく形にするのは非常にわかりやすい導線と思った。そういう意味で見ると空き家とかゲストハウスっていうところは、他地域でもやっているし、成功事例もかなりあり、良いと思う。瀬羽町が活性化しつつあることは、滑川の非常に大きな希望と思う。ご意見が出たところは私もほぼそのように思っていたことが議論されたと思う。

座長

藤野特別アドバイザーありがとうございました。

では、今後の共創会議の進め方について、他に何かご意見ありませんか。

委員

今後のスケジュールのところに、市民によるまちづくりWGを設置とあるが、市民に縛ってしまうとすごい苦しくなりそうなので、何か市民を中心にしたWGにしたほうが良いと思う。

委員

確認です。さっき12月の市民セッションで、これ、テーマごとに2回程度とあるが、報告書案で6項目ぐらい、1日の間に複数項目同時併走で、週末1回次の週1回という風に、ぎゅっと詰めるイメージですか。

柿沢副市長

複数項目を2回にわけ、グループでディスカッションして、それぞれグループごとに発表して頂くような感じで、ぎゅっと詰まった感じになる。同じ方が2回参加も結構ですし、共創会議の委員の方は両方参加して頂きたいと考えている。市民によっては都合の良し悪しもあり、片方だけでも参加していただきたい。少人数でのディスカッションの方が話をしやすいし、忌憚なく意見できるということもあるので、人数が多ければグループを増やす。

委員

県ビジョンセッションのイメージでいうのですが、グループごとにファシリテーターが必要となるので、ここにいるメンバーがコアになるのであれば、スケジュールを早めにおさえてほしい。もしくは市役所の職員でファシリテーターを務めないとうまく進行できないので、注意して進めて頂きたい。

柿沢副市長

皆様に市民セッションの日程案をお示しして、グループのファシリテーターの方をお願いしますということをまさに考えていた。

藤野特別アドバイザー

ファシリテートは大事だと思う。ここにいる方だったら、明るい雰囲気ファシリテートできる。未来について語っているという明るい雰囲気をどれだけ出せるかということが大事なので本当におっしゃる通り、良いファシリテーターをつけることが大事だと思う。役所の若手をこのメンバーの脇に置いて学ぶということもできる。今の意見に本当に賛成である。

委員

子育て世代、若い世代っていうのは時間とか日程によっては、参加できないこともあるので、そういう方たちが、参加して意見できるように検討してほしい。

委員

各分野で、先ほどのズワイガニの話のように知識を持っている人とか、関心のある高校生大学生とか、実行に移したい人に個別に声がけし参加頂くなどの仕込みが大切。先ほど話にもあったが、行政が主体となるべきことと民間が主体となるべきことがあると思っているが、すぐに人は動かない中で、来年の4月以降に、誰かが小さくても動きたくなるような仕込みを今のうちにすることが大切。やっぱりこの市民セッションだけでは、行政がやることに市民が意見して終わりになると思う。意識的に参加する人選をして欲しい。

委員

先ほど指摘あったWGに関して、ヨットハーバーの失敗例あったが、市民だけではなく、より実現性を持たせるためにすでにもう事業している方やこれから事業をしようと思っている方をうまくセットして、実現性のあるWGにしたい。その中に、そのために市民の夢を聞くというプロセスがあると思うが、その人選をうまくやれたら良いのでは。

座長

ありがとうございます。
ご意見ないでしょうか。
お願いいたします。

委員

市民セッションの最終的な目標は報告書を完成させる上で、市民の皆さんに新しい意見を頂いてそれを反映させることだと思ったが、そこに関して別にもう実現可能性を考慮する必要はないと思う。その後にWGを設置するとしたらそのファシリテートする上で、どういう議論内容に持って行くのが理想なのかお聞きしたい。

座長

柿沢副市長よろしくお願いいたします。

柿沢副市長

市民セッションは、このまちづくり共創会議の報告書案について、まず市民の皆さんに知って頂き、意見を頂くことを目標としている。そのためにファシリテーターとしてそういう意見を引き出すということをやって頂きたいとを考えている。

委員

前提として、市民が共創会議を知らないなので、まず共創会議についての周知が必要。その後、意見を述べたい人を集めるという流れになる、この周知の方はどういうふうに考えているか。

座長

副市長よろしくお願ひいたします。

柿沢副市長

周知につきましてホームページをベースにしつつ、SNSで情報発信をしていきたい。それだけではなかなか集めることが難しいので、この層の方々に出て頂きたいという団体に声掛けしてお願いすることによって、多くの方に参加して頂きたいと考えている。

具体的に言えば商工会議所、商工会議所青年部、JC、子育て世代がたくさんいらっしゃるPTA連合会などに声がけしたい。他にどういった団体にお声掛けするかは検討したい。

委員

市が情報をHPなどにアップすれば、この中の委員がSNSでのシェアなどで発信して、1人で2人でも参加する人が増える可能性がある。興味を持つ人がいてもおかしくない。

座長

他にご意見ございませんでしょうか。

委員

市民セッションに参加される属性が大事と思う。希望としてはやっぱり男女半々になるようにして頂きたい。普通の子育て世代の会社員などの方には是非とも参加してもらいたい。商工会議所、JCの方は、自営業の方が多いので、多くなくても良い。滑川市の主役の方々がある意味参加する形が良いし、今回子育て関係の取り組みが多くあるので、実際それに取り組んでいる方々が多い方が良い。

座長

ありがとうございます。特別アドバイザーよろしくお願ひします。

藤野特別アドバイザー

市民交流館のあいらぶ湯などで、紙を配って、市民セッションに来ませんかってお客に声がけするのは意外と効果があると思う。SNSもいいけど直接声がけするのは、結構来る気になる。意外と声がけて大事と思う。声をかけられると、来てもよいかなと思うので、できるだけ直接声をかけられたという形にすると良いと思う。

座長

ありがとうございます。

他にご意見ございませんでしょうか。

委員

SNSなどいろいろなところでまちづくり共創会議の内容案を紹介していくということだが、この情報は公開してもよいか。

柿沢副市長

はい。公開お願ひします。

座長

ありがとうございます。

他にご意見なければ、時間なので、藤野特別アドバイザー総括で何かあれば。

藤野特別アドバイザー

長く議論を重ねているし、互いに心許せる仲間だと思うので、皆さんで連絡取り合って声掛けして、皆さん自身がファシリテートしながらやると良いと思う。多くの人を賛同させようということをあまり考えずに、1%の人に賛成させようというふうに考えている。富山県民100万人だが、6割ぐらいの人がぼんやりした賛同があっても、実は人は動かないと思う。人が動くときには、1%ぐらいの変わった人が動くかどうかが大事だと思っている。変わった人とは悪い人ではなく、他の人と変わった行動をとる人たちで、かつ熱量の高い人たちだと思っている。「しあわせる。富山」で幸せ人口1,000万人。100万人富山県民自身が幸せになること以上にその10倍の人たちを幸せにするということ。1,000万人という非常に馬鹿馬鹿しいと思える数字を出している。だからこそ、特に若い世代の人とか、一部の変わった人がこの祭りに乗ってみようとなる。そういう人たちが少しずつ各富山県の地域の中で、ふつふつと現れてきて、それがこの富山県成長戦略カンファレンス「しあわせる。富山」にも集まってまたそれ以上の盛り上がりになってきたというところがあるのかなと思っている。滑川も同じように、市長と今これだけの仲間が集まってきて皆さんともいろいろ議論したからわかるが、変わった人だなと思う。そういう変わった人たちと、新しいことをやっていくということが、その地域の中で何か面白いこと始まるなとなると思う。面白いことが始まるころに変な人がいる。必ず反発も出てくると思いますが、やっぱりざわつきがないとまちが動かないというふうに思う。皆さん、素晴らしい方ばかりなので、あとは市民セッションを成功させて、この滑川が本当に良い方に動くように、とても期待する。

座長

特別アドバイザー本当にありがとうございます。

それこそ本当に滑らない市民セッションにしないといけないと思うので、よろしくお願いします。時間も来たので、市長、最後によろしくお願いします。

水野市長

約2時間、本当にありがとうございます。今出た意見にやはりいろんなキーワード出てきていますし、頂いた意見について検討する必要があると思う。先ほど藤野特別アドバイザーが言ったビジョンについて全体的に丸くて尖りがないことについては、もう少し練ってビジョンを決めたいと思う。あとはいろんなキーワードをホタルイカ、ズワイガニ、すべらないもあるのですが、その辺りも活用しながら、決めていきたい。スケジュールに関しては、いろんな意見も頂いた。タイトなスケジュールもありますけど、皆さんにファシリテートして頂くことになると思います。藤野特別アドバイザーが言った1%の人を熱狂させ、ざわつきを起こしながらまちをうごかしていければ良いというふうに思っている。最後になりますが、市民セッション本当に滑らない市民セッションにしたいと思うので、また皆さんのご協力をお願いしたいと思う。本当にありがとうございました。

座長

令和5年度第1回滑川まちづくり共創会議を閉会とさせて頂く。

委員の皆様、本日は貴重なご意見ご提言ありがとうございました。市民セッション日程について、特に子育て世代の方が参加しやすい時間等につきましては、またちょっとご意見を賜ればと思いますので、よろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。